

第4回新しい学校づくり鳴門市地域協議会議事録

新しい学校の教育環境の整備のあり方について

【新しい学校の学校規模について】

総合学科について

委員

事務局から説明がありましたが、総合学科の規模については、5クラスとすることによってよいでしょうか。

皆様の賛同を得まして、総合学科のクラス数は5クラスといたします。

体育科について

委員

前にも、2クラスあればいろいろな競技ができると申し上げましたが、やはり現状を見てみますと、初めから2クラスというよりは、最初は1クラスからスタートして、状況を見ながら将来的に考えていくほうがいいのではないかと思います。また、今の視察報告を聞いても、1クラスでも2クラスでもやり方によってはいろいろなことができるということなので、しっかり工夫をしていただいて、1クラスからスタートしてはどうかという気がします。

委員

私も、1クラス40人から始めていいのではないかと考えます。ただ、視察報告では、体育科が2クラスあるA高校で、我々がずっと言っている普通科と体育科の生徒との交流が可能となっているという形が見えますので、1クラスでもこういう方法を取れば、総合学科と体育科でも交流ができるのではないかと思いますので、40人からということで賛同したいと思います。

事務局

追加説明いたしますと、A校は、運動部・文化部の区別なく、部活動に全校挙げて取り組むようにしており、45分×7限の授業を行った後、全員が同じスタートで一斉に部活動に取り組むようにしています。

また、ローカル線となったJR宇野線の便数が、午後7時以降には極端に少なくなるため、部活動は7時までという時間制限の中で集中して行うこととしています。こうしたことから、普通科の生徒も部活動をしながら進学も可能となっています。ただし、少ない練習時間のため、野球部など練習に時間がかかる部活動については、厳しい状況となっているようです。ご意見にありましたように、体育科だけではなく、総合学科も含め、全校挙げて部活動に取り組み、新しい学校の活性化ができるように工夫したいと思います。

委員

鳴門地域は、部活動に非常に熱心なところだと思えますが、鳴門市内から徳島市内のほうへ部活動の面で生徒の流出があります。また、勉学の面についてもそういうことがございます。鳴門市では、鳴門市内の中学校に強い部活動がありますので、体育科を作るならば、是非それを継続できるように考えてほしいです。どういう部活動を強化しようということも、鳴門市内中学校の部活動の状況を念頭に置いて進めて頂ければ、非常にありがたいと思えます。

事務局

今回の地域協議会で、体育科のクラス数をご協議いただいている段階でありますので、どういう部活動を強化していくかについて、具体的な検討はできておりません。ただし、「鳴門工業高校は、野球で競技力向上スポーツ指定校を受けており、県下的に見ても野球のグラウンドも充分整備されているので、校地の問題はありますが、新しい高校においても野球は継続していく方向でよいのではないか」、「鳴門市は徳島駅伝をはじめ、長距離に熱い思いがあり熱心に取り組んでいるので、男女の長距離を加えてはどうか」、「女子バスケットボールのように、城北高校、富岡東高校と既に2校がスポーツ指定校となっている競技は適切ではないと思う」などというアドバイスをいただいております。

また、鳴門高校女子が陸上でスポーツ指定校となっておりますが、長距離の指定ではありません。男女の長距離に関しては、美馬商業高校男子、小松島西高校女子がすでにスポーツ指定校となっておりますが1校のみの指定であり、地域も隣接しておりませんので、一つの候補になるのではないかと考えております。

また、野球のグラウンドなどに関しては、今回の協議題である新しい高校の校地の問題にも絡んできます。先程ご意見いただきましたが、鳴門市には中学校で非常に強い部活動がありますので、中学校の状況等も充分調査しまして、様々な状況を考慮しながら考えていく必要があると考えております。

委員

どの競技種目を強化していくのかということは、かなり難しい問題だと思います。鳴門市はスポーツの盛んな地域ですけれども、ある特定の種目というように絞り込むには、それなりにそのことについて、集中して協議をする、話し合いを持つ、そういうことが必要であると思えます。全県的なことと、鳴門市のことと、両方考えながら絞り込まなければならぬので、その辺は難しいと思えます。

また、やはり体育科を設けますので、指導者については、県内の優秀な指導者を新設校に配置することが必要であると思えます。人事については、教職員課とスポーツ健康課のスポーツ指定校担当、それから体育協会とか、そういうところの主な方が集まって、その新設校で何を強化していくかということについて協議していく必要があると思えます。指導者の配置については特別な配慮がされて、魅力ある体育科が開かれますようお願いしたいと思います。

委員

これまでの意見をまとめますが、体育科のクラス数については、以前、視察報告にあったC高校のように、まず1クラスからスタートし、充実してきたら2クラスも考えていく方法が良いということでした。

また、新しい学校においては、鳴門市から生徒が流出するのではなく、逆に徳島市や他地域から鳴門市に来てもらえるように、総合学科と体育科を魅力ある学科にしていく必要があるとのことでした。

強化競技種目を決定するにあたっては、関係機関からの意見を聞くなど、充分議論をしてほしいとのご意見もありました。そして併置の総合学科とは、カリキュラム（授業）の交流はもちろん、部活動においても交流が図れるように充分考えてほしいとのことでした。

体育科は、1クラスとすることによろしいでしょうか。

それでは、これまでのご意見を踏まえ、総合学科は5クラス、体育科は1クラスとしたいと思います。

【設置場所について】

委員

第1回目か2回目の話の中で、新しい高校を創るのだから、どちらかが統廃合されるというイメージを払拭するために、どこか別の場所に新しい高校を建てるという考え方もあるのではないかという意見が出ていたと思います。そこで、校地について議論する前に確認しておきたいのですが、考え方としては鳴門第一高校か鳴門工業高校の校地のどちらかを使用するという大前提があるのでしょうか。それとも新しい用地を確保して、そこに新しい高校を建設するという話も議論するのでしょうか。多分、どちらかの高校を有効活用していくということだと思います。

事務局

鳴門市も県も厳しい財政状況となっております。「高校再編方針」の中にもありますが、今ある施設及び校地を有効活用する方向で検討していただきたいと考えております。

委員

どちらかの高校の統廃合というのではなく、両校の伝統を活かした上で、新しい学校を創るという考えで話し合っていくのですが、校地の選定については、有効に活用していくとの観点から決定していただいて、それがたまたま、こちらの学校であったということで考えていただければと思います。

委員

非常に難しい問題で、いろいろな考え方や立場があり、非常に言いにくい話であると思います。鳴門第一高校にしてみたら、長年、女学校時代から歴史を積み重ねてきた場所でございますので「無理にそちらに行かなくてもいいじゃないか」、また、「変遷を繰り返しまたなくなるのか、非常にさびしい限り」ということもあるでしょうし、鳴門工業高校にしてみたら、「新しい学校じゃないか」ということもあるでしょう、いろいろ意見が分か

れると思います。

また、校地の次に校名の問題も出てくるのではと思うのですが、やはり鳴門第一高校にしてみたら度々校名が変わってきたという歴史があるのですが、またそういう場面になってきたということで、いろいろな思いや意見があると思います。

言いにくい話になるのですが、時代の流れということもあって、今の時代、非常に少子化が進んできて、小学校・中学校も統廃合の問題が出てきています。鳴門市も既にそういう問題が出る状況になっております。鳴門市に6校ある中学校も、1校減という形になっていくと思います。その様な状況の中で、高校が統廃合せざるを得ないという状況になってきたので、こういうスポーツの盛んな地域性を生かした、時代にマッチした学校を新設するということであれば、皆さんもご理解いただけるのではないかとこの気持ちで申し上げますが、2箇所を一つに、どちらかにするというのであれば、どなたも面積の大きいほう、余裕のある所に持っていく方が良く考えるのではないのでしょうか。

運動公園に近いこと、面積において余裕があること、あるいは、先ほどの体育関係の拡張等もいろいろ勘案し、また、新しく成長する学校ということを考えるのなら、私個人の意見ですけれども、教育を受ける子どもの立場に立つと鳴門工業高校のほうが適切であると思います。

また、今の時代ですので、道路状況も勘案される一つの材料ではないかと思えます。撫養街道もだんだんさびれてきているというか、ちょっと名を潜めているような状況になっており寂しい気もしますが、鳴門第一高校は、撫養街道側の進入路から入ってくることを考えると、道路状況から見ても課題があると思います。鳴門第一高校の校地と南の広い道路との間に鉄道が通っていますが、鉄道は国立公園がある関係からも廃止とはならず、今後もこういう状況が続いていくと考えられます。体育科新設の中で、練習試合等で他府県からも来ていただけるような状況になるなど先のこととも考えるなら、道路が4車線になっている鳴門工業高校にならざるを得ないのではないかと私個人は思っております。

委員

思いもいろいろありますし、理想と現実問題のある中で決めなければならないことでもあります。苦しい立場であるにもかかわらず、教育を受ける子どもの立場に立ったご意見をいただきました。

委員

市教育委員会としてですが、平成16年に県に要望書を出した経緯がございます。その中に3項目ほどございますが、一つは、できるだけ早い時期に再編統合していただきたいというのがございまして、生徒に迷惑がかからないよう早い時期にしてほしいという思いがあります。場所についても市立鳴門工業高校の校地を有効に活用していただきたいと、県に要望を出した経緯がございますが、その姿勢というのは今のところ変わっておりません。

鳴門第一高校の関係の方には、やはりいろいろ思いはあろうかと思えますが、鳴門工業高校の状況も皆さんご存知のとおりでございまして、非常に広い校地で、教室、校舎についてもゆとりを持った配置ができておりますし、新しい体育科というような付加を創っていくうえでは、いろいろな面で工夫ができる可能性を持った余裕がある広い校地でござい

ます。また、運動公園からも近く、そういう面でも便利さはあるのではないかと、そのような意味で市としては活用していただけたらと思っております。

委員

校地面積など様々な状況を考慮しまして、新しい学校の校地は、鳴門工業高校としてよろしいでしょうか。

県立高校と市立高校との再編であることから、今後、県と鳴門市で条件等について協議する必要があると思いますが、この地域協議会の結論としては、新しく発展成長する学校として、設置場所は鳴門工業高校の校地をお願いしたいとの思いがありますので、県と鳴門市との協議の際には、是非伝えていただきたいと思います。

事務局

今後、県と鳴門市の協議を進めるにあたって、皆様のご意見を尊重してまいりたいと考えております。

【再編のスケジュールについて】

委員

鳴門市の子どものことを考えますと、徳島県下の中でも、鳴門市の高校の状況というのは、すごく不利な状況にあると思います。現在の3校から2校になるということで、まったく新しい校地に新しい高校ができるのであれば、子どもたちへの影響はまあ少ないのではと思うのですが、鳴門工業高校の敷地を使うということになりましたら、その移行時期には、生徒がいるわけですから、かなり影響してくると思います。

鳴門市のすべての生徒が、鳴門の3高校に進学できているという状況の中で、それを2校にというのは、まだそんなに問題はないのですけれども、今の現状でしたら、ほんとに不利な中で2校になるということで、その移行期間の子どものことに関して、県も充分検討していただきたいと思います。

事務局

確認をさせていただきますが、工事をしている期間に、鳴門市の子どもがどういう進学・通学状況になるのかということでしょうか。

委員

鳴門工業高校の敷地を使うということで、鳴門第一高校・鳴門工業高校ともに、その移行の時には生徒がいることになります。鳴門第一高校にも生徒がいる、鳴門工業高校にも生徒がいるという状況の中で、移行していくということに当然なりますよね。その部分で、子どもたちへの影響があると考えられます。子どもが不利な状況とならないようにしていただきたいと思います。

委員

再編統合された日和佐高校で勤務しておりました。統合されるときに、日和佐高校のように1年生がいなくなり、2年生がいなくなり、最後は3年生だけになる、そのような状況、鳴門第一高校の方に生徒がいらないということになれば、部活動はどうするのでしょうか。再編統合にあたって、移行期には、生徒は大変不利になるわけです。そういうこともきっちりと考えて再編統合してくださいということと思います。

それから、鳴門の生徒を鳴門の高校で全部引き受けられるというような状況でもございません。外に出ている生徒もおりますが、その様な状況の中で、鳴門の生徒をこの3校で引き受けていくということで現在頑張っておりますので、そういうこともいろいろ配慮してほしいという保護者の立場に立った意見だと思えます。

県教育委員会

再編の移行期に、鳴門の生徒が不利にならないようにとのご要望ですが、今までに県では、海部郡の穴喰商業高校、日和佐高校、海南高校の3校を再編統合いたしまして、海南高校の校地に海部高校を設置いたしました。平成16年度に海部高校を立ち上げたのですが、3校の募集停止をかけ、海部高校のみ生徒募集をいたしました。日和佐高校と穴喰商業高校は、1年生の募集停止をかけ2年生と3年生が残り、海南高校では旧海南高校の2年生、3年生が残り、1年生は新しい海部高校の生徒ということで、日和佐高校、穴喰商業高校、海南高校を合わせたような定員で生徒募集をいたしました。海南高校の生徒が卒業しますと、海部高校の生徒が全学年揃うようになり、日和佐高校と穴喰商業高校は2年生、3年生が卒業したら閉校となる形式をとりました。

また、徳島工業高校と徳島東工業高校と水産高校の3校を再編統合いたしまして、新しく徳島科学技術高校を設置することとしており、平成21年度開校に向けて準備を進めています。海部の方式とは違い、徳島工業高校と徳島東工業高校の現在の1年生については、21年度統合のときには、徳島科学技術高校に転学することをご案内した上で生徒を募集しております。3年生になるときに同じ徳島科学技術高校の生徒になるとのことで、襟章の色を変えて識別ができるようにしてはおりますが、同じ制服を着用しています。今年の1年生が3年生になるときに、今年と来年の入学生が、徳島科学技術高校の3年生と2年生となり、21年度の入学生が、徳島科学技術高校の1年生となるように統合を進めていきます。

今回は、県立高校と市立高校との統合ですので、市の教育委員会とも、統合の形態や移行期間の生徒募集をどうするかを詰めていかなければならないのですが、できるだけ、鳴門の生徒さんに不便をかけることがないようにしたいと思います。

委員

統合形態について、この場である程度議論できるのでしょうか。

県教育委員会

移行期間にどういう形態で統合していくのかは、専門的な協議が必要になると思えます。鳴門工業高校の情報理数コースは総合学科の系列として組み込んでいきますが、それ以外の機械コース、環境コースなどは、いつの時点で募集停止をかけていくのか、また、鳴門

工業高校の校地を活用する場合，校舎の改修，耐震工事のスケジュール，財政的な問題，教員配置の問題など充分検討する必要があります。統合形態についてご要望がありましたら，ご意見いただきたいと思ひます。

委員

設置場所，統合の形態以外にも，再編時期の問題があると思ひます。それをはっきりしないと，いろいろ複雑な問題が出てくると思ひます。子どもさんにしてみたら進路の問題は大きいので，例えば，ある程度の段階で場所が決定されたとしたら，時期的な問題を早く検討して「いつ再編します」ということから始まらないと，ただただ開校が何年になるのか分からない，という状況になってきたら，子どもさんにとって不利になります。夢がなくなり，「もう鳴門の学校や行けんわ，これがはっきり決まらなったら他のところに行かな仕方ないやないか」という問題が起こってくると思ひます。

委員としても，一般の人が協議内容を知ったとして「そんなことを簡単に言って，いつできるんだ」と言われても再編時期を答えられないし，「どのような形になるのか」と言われても説明することができません。教育委員会として，いつ新しい学校を創るということを決めていただかなければ，地域の人，特に子どもさんが，2校について，本当にここ2年3年動揺し，いろんな問題が起こってきて，市民が問題を余計大きくするような気がしますので，是非とも早く日の設定を，何年にするということを決めていただきたいと思ひます。また，決定するまでは，設置場所にしてもあんまり公開しないようにしていただきたいと思ひます。

委員

子どもを中心に，子どもの不利にならないようにということをお前提に進めていただきたい，再編の時期についてもできるだけ早くお願いしたいというご意見でした。この地域協議会としては，鳴門市の子どもたちが，できるだけ早い時期に新しい学校に入れるようにご検討いただきますよう切にお願いいたします。

また，教育委員会の事情もわかりますが，時期と形態については，一步踏み込んでお話しただけならありがたいと思うのですが，時期についての回答は，この地域協議会では難しいのでしょうか。

県教育委員会

時期を明言できたらよいのですが，先程も申し上げましたように，鳴門工業高校内に，総合学科の教育のための実習施設を設置する必要があります。工業の実習棟で使える施設は有効活用する中で，耐震化や間仕切りを入れていく改修工事の必要もあり，そのための設計と工事が必要です。また，現在，鳴門工業高校には生徒がおりますので，工業の生徒募集をいつ停止し，いつまで施設を使用するのか，いつ設計し，工事できるかは，今後詳細のスケジュールを詰めなければならないので，そこが確定しないと，何年度から開校とは言えません。地域協議会でもできるだけ早い時期にということですから，早く進めたいと思ひますが，こうしたこともご理解くださるようお願いいたします。

委員

できるだけ早い時期に，統合の形態についても子どもの不利にならないようにしていただきたいというのが，全体の総意ですので，お願いしたいと思います。

委員

ほとんどの方のご意見として，できるだけ早い時期にということでございます。ただ，私どもの方で，平成何年に第1回目の生徒募集を，というような判断ができるような材料もありませんし，単に希望だけの何年という話も適当でないと思います。今おっしゃられたように，いろいろな施設の改修とか，鳴門第一高校と鳴門工業高校に在学している子どもさんのこと，募集停止の時期とか，いろいろなスケジュールの考え方があると思います。それらと周りの環境のことなども考えて，例えば，こういう条件の場合は，最短であれば，平成何年ごろ開校できますというようなモデル的なものをお示しいただいて，この協議会で，それをたたき台に検討をさせていただくようにしたらどうかと思うのですが，どうでしょうか。

委員

こうやって協議会で話をしているので，鳴門市内の方々は，この問題も何らかの形である程度知っていると思います。関心も高く，鳴門市が鳴門工業高校の再編を県に要望したときからこの話は出ていたので，「2校が1校になるなら鳴門工業高校の方になるな」，「じゃあ時期はいつなのか」と言われる方もおられます。だから，子どもさんの夢を本当に託せる学校にするためには，1日でも早く，「何年のいつにする」と言ってあげないといけないと思います。これは大きな教育委員会の責任になってくると思いますので，早急に検討していただいて，次の協議会では言っただけのようにお願いいたします。

委員

先ほどの開校が何年ということを決めていただきたいという希望もあるのですけれども，移行の時の形態について，保護者と子どもの不安というのがすごくあると思います。今，現状3校の中で鳴門の子どもたちが高校に通っていますが，それが2校になるということで，その移行期間が，今から検討して何年後ということになりましたら，やはりその何年かの間は，保護者や子どもに動揺があると思います。その期間に，「鳴門には行く高校が鳴門高校しかないじゃないか」というような状況にならないように，ぜひ県の方も充分検討していただいて，移行するまでの期間を決めていただいて，体制を充分とっていただきたいと思いますので，よろしく申し上げます。

事務局

今回のご意見を受けて，今後，鳴門市との協議に入っていくこととなります。再編時期を示してほしいというのはごもっともなご意見なのですが，今後，鳴門工業高校を改修していくこととなりますと，耐震診断に1年，耐震設計に1年，耐震工事に2年の最低4年はかかりますが，耐震診断の結果，耐震改修ではなく改築となれば工期はさらに延びます。スケジュールを発表した後で，開校が遅れるようなことになれば，ますます不安を煽る結果になると思います。

不確定な要素がありますので、次回の地域協議会で何年に開校ということをご責任持って言えるような状況にはならないと思いますが、最短の場合には、これぐらいの時期になるというたたき台をお示しすることは可能と思います。工事のスケジュールや再編について案内されずに入学した生徒が在学中に再編統合されるということがないように配慮するなど、検討した上で最短のスケジュールのモデルをお示ししたいと思います。ただ、今後の市と県の話し合いの中で、想定外の課題が生じて開校が遅れることもあり得ることをご理解いただきたいと思います。

また、改修工事の間に鳴門市内の高校が鳴門高校だけになるということは考えておりません。

委員

子どもを中心に考えた熱い思いから出たことですから、事務局を突き上げるようなものではありませんのでご理解ください。一方で、事務局より説明がありましたような現実的な問題も理解できますので、議論のできるようなたたき台のモデルケースを出していただいて、冷静な目で議論していきたいと思います。

県教育委員会

統合の年度を示してほしいということは、非常によくわかるのですが、極端な話をすれば、平成20年度の入学生には、再編統合の正式なご案内ができておりませんので、それぞれの学校で卒業することになりますから、20、21、22年度の3年間はそれぞれの学校は存続することになります。平成21年度入学生には、ご案内することは可能ですが、体育科の生徒募集の準備ができて、総合学科の実習室ができて、新しい校地で新しい高校をいつ立ち上げることができるのかを検討する必要があります。いったん発表しますと、ちょうど入学年度にあたる生徒は、新しい高校への進学を予定しますので、変更が生じた場合に、別の進路を取らざるを得なくなります。したがって、発表すると変更は難しくなりますので、新しい教育の施設面や教員の配置面で、きちんと詰めてからでないと発表は難しいと考えております。できるだけ早い時期に検討するというごことをお願いしたいと思います。

委員

できるだけ早い時期というのが結論なのですが、明言できなくても、再編統合の時期と統合形態については宿題としてできる範囲でやっていただきたいと思います。

次回の地域協議会では、まとめの時期にも来ておりますので、「報告書」のたたき台を提示していただいて、それをもとに協議をしていきたいと考えております。